

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	3290400088		
法人名	有限会社 伊野本陣		
事業所名	グループホームやまもも		
所在地	出雲市美野町504		
自己評価作成日	平成26年1月26日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaiyokensaku.jp/32/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JigvsoyCd=3290400088-00&amp;PrefCd=32&amp;VersionCd=">http://www.kaiyokensaku.jp/32/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JigvsoyCd=3290400088-00&amp;PrefCd=32&amp;VersionCd=</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	有限会社 保健情報サービス		
所在地	鳥取県米子市宗像53番地46		
訪問調査日	平成26年3月27日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

広々とした庭を一望でき、季節の移り変わりをホール内から見渡す事が出来る。すぐに庭や、畑へ出る事ができ、自由に外で洗濯等干す事も出来る環境にある。楽しく働きやすい職場を職員は目指し日々、お年寄りの方々のケアをさせて頂いている。お一人お一人の出来る事への支援では、家事全般をケア理念にも掲げているように”共に”出来るようにしている楽しみ・生きがいを大切に、日々生活を共にする職員とし過ごして頂いている。また、入浴は夜間も入れることなど、普通の暮らしを継続できる生活スタイルの構築に取り組み、一人一人のご希望にできる限り答える事が出来る職員配置に努力し、ケアぬい取り組んでいる。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

旧本陣の建物を移築された落ち着いた雰囲気の漂うホームです。職員は笑顔に溢れ、利用者の方も和やかで楽しそうに日々を過ごされているようでした。職員と利用者の会話や笑い声が聞こえ、利用者の方にはできることをお手伝い頂くなど、楽しみや生きがいを大切にされている場面も伺えました。普段の自宅にいる時と同じように日々過ごしていただくために、職員が寄り添いながらケアの取組んでおられました。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	経営理念、ケア理念は施設内に掲示・暗記し、理念に添ったケアをするように心掛けている。部門会では毎月の目標を立て取り組み、共通意識を持ち日々のケアに取り組んでいる。また、施設内研修で理念についての研修会、アンケートをしたりして、理念を振り返る時間を設けている。	施設名の目立つ所に経営理念、ケア理念が掲げられており職員も理解されている。部門会(職員会議)では毎月目標を立て、共有しながら日々のケアに取り組まれています。研修会やアンケートなど、理念の振り返りの機会も設けられています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的ではないが、行事・イベント時には地域の方々に回覧を配布や電話連絡を取り参加していただき、手伝って頂いている。また、地域へのクリーンアップ活動を年に2回行い、地域へ感謝の気持ちとし、また小学生の通学路環境整備等の活動している。	事業所のイベントや行事には地域の方にも参加頂き交流が深まりつつある。散歩時にも声を掛けて頂いたり野菜を頂いたりもする。年2回清掃活動にも参加されている。ボランティアは小規模ホームと合同で大正琴、ハーモニカ演奏など楽しめる。地元小学生による社会見学の訪問があったり、正月のとんどさんに参加されるなど地域との交流がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎月家族様への便り「いーのおー」通信を配布している。今年から地域の方々に回覧で回し、認知症をより一層理解して頂けるよう努めている。また、地域が求める物はないかと、検討中である。運営推進会議での事例報告、活動報告を継続して行い、認知症への理解を推進している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行政担当者、地域代表、近隣の方、医療機関の方々の参加をいただき、2か月に1回、第3金曜日に開催している。事業所からの事例報告、検討事項等を話し、意見交換している。また、認知症養成講座の開催を行っている。	2ヶ月に1回小規模ホームと合同で開催される。家族代表、市担当者、地域の方など参加頂き、運営状況や事業報告が行い、意見等を頂いている。特に防災問題について多く検討されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	担当者が必要に応じて市や県との連携を図るようになっている。また、運営推進会議でも行政への意見や助言等を頂ける場として活用できている。	運営推進会議に市担当者が参加頂いたり、必要に応じて連携を図られている。市の安心センターによる虐待の研修会に参加された。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を設け、委員会からの呼びかけをしている。また、1か月に1度、でのチェックリストにて確認し、ケアを実践している。現在スピーチロックに重点をおき、施設全体の取り組みとして行っている。身体拘束をしないケアを日々追求し出来る限りの見守り支援に取り組んでいる。	月1回はチェックリストを行い、確認しながらケアにあたられている。現在は特にスピーチロックに重点を置きながら、できる限りの見守り支援を心掛けておられる。課題のある場合には、カンファレンスを行い話し合われる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束委員会を設け、委員会からの呼びかけをしている。また、日々の中で拘束に感じられることなど話し合い、随時各部署に報告している。運営推進会議の場を活用しあんしん支援センターの方に虐待についての連絡方法等を確認している。また、職員のストレスに対する発散の場所を施設内研修とし取りいれて行ったりしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	一部の職員は研修参加しているが、全職員は参加していない為、研修報告書を書き、その都度全職員に確認してもらう。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書に基づき、話し合いの時間を設け理解して頂いている。 解約時には、最期まで責任を持ち転居等もさせて頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口の設置はしている。直接職員や管理者に言われる事が多い。また、年に家族面談の時間を多く設け、施設へ来られない家族は、電話や手紙で意見交換をしている。	月1回はお会いしたり、電話にて直接家族と管理者職員はお話しされその時に言われる家族が多い。家族とも信頼関係が築けており、意見交換ができています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員といつでも話し合えるような雰囲気而努力し、意見・提案はその都度日々傾いている。運営に対する意識は、職員も今まで以上に意識するようになってきた。またリーダー会を月に2回も受け、各部門会への報告が出来る体制に取り組んでいる。	運営に関することについては、職員全員で取り組めるよう考えられるよう部門会で話し合われた内容を集計し、リーダー会で検討、検討内容を部門会で報告といったサイクルが確立されており、職員も意見、要望が言いやすい環境が整っている。また法人に対しても相談しやすくなっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日々把握する努力に努めており、管理者との連携を図っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修への参加はできる限り参加するようにしている。研修によって、希望参加、職種別参加としている。また、ホーム内研修の委員が声掛けをし、施設での研修を計画、希望者が参加できるよう働きかけている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修を通じての交流や、交換研修、他施設実習も企画し実施している。行事等での交流を図り、情報交換等を通して、質の向上につながる様努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前調査時、本人・家族様からの要望を聞き入れている。また、随時要望等を取り入れケアを行い、関係づくりに配慮している。出来る限りいままでの生活パターンと変わらない生活を送れるよう支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時には、施設を見ていただいた上で決定していただくようにしている。本人の想い、家族様の思いを踏まえうえでケアをするよう、家族様の不安の除去にも配慮している。十分な話し合いのもと、		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の状況を見て、その方に合ったサービスで対応している。また、環境整備等、本人の身体状況、精神状況に合わせ整えている。状況に応じて、他施設の紹介も行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護する人・される人という関係ではなく、生活を共にする者同士という意識でおり、一緒に家事、買い物、洗濯等の日常生活を支援している。好きな時に出掛けたりと普通の暮らしを支えるような関係を作れるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族からの要望にもきちんと向き合い、その都度話し合いをしながら関係を築いている。1カ月1回家族への状況報告を行い、日々の様子をテ耐えている。また、外出、外泊の体制も必要な方には整えていただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時間の規制はなく、自由に来訪できるスペースの設置、また、個々の要望を聞き自宅への外泊・外出もしたりと、面会頻度も多い。自由に電話できる環境にもなっている。	近所にある馴染みの美容院に行かれたり、骨董屋さんでお茶をよばれたりされている。家族などの訪問も多い。また家族との外出、外泊もできるように体制を整えられている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士、性格の不一致がある為、食事やお茶の時の席の配慮をし孤立しないよう、利用者同士のトラブルが起きないよう気を付けている。また、自分の思いが伝えられない方、介助が必要であり自分から行動できない方への支援を十分に考慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族側からの近況報告などがあり、それに対して、相談・助言等している。また、介護保険等についての相談にも来られたりと、継続した関係が出来ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人、家族、居室担当者が話し合い、ケアプランを作成している。できるだけ希望を取り入れ、対応し、楽しく生活できるよう心掛けている。	日々の生活の中で利用者と職員がゆったり会話を楽しむ時間を作りながら、意見要望などを聞き取っている。また家族の方にも聞きながら、利用者本人の思いや希望を取り知れるようにされている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日常生活において、本人とのコミュニケーションの中で聞き取りをしている。また、家族様から聞き取りを行い、把握している。日々の日常生活の中で常に情報収集できるように努力している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人記から、それぞれの利用者様の一日を把握している。おおよその生活パターンがあり、個々のパターンに合わせ支援している。また、心身の状態の変化など、職員間での送りをし、把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の生活を通し、プラン作成をしている。定期的に家族様へ近況報告・要望など聞くようにしている。	毎月月末部門会においてモニタリング、評価が行われている。家族とも定期的に日々の暮らしぶりを報告されており、意見要望を聞きプランに活かすようにされている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づき、工夫している事は、職員間で検討しながら実践している。プランは計画に沿ってケアをしている。個人記録にてそれぞれ記録し把握している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の要望をできるだけ聞き入れ、職員間や家族様との話し合いを行いケアを行っている。 また、つど状況に応じて臨機応変な対応できるように体制作りをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コミセンへの活動への参加をし、交流を促進している。又、地域の美容室などを利用し、関係づくりを行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療提携機関と提携しており、状況に心して相談し、医療を受けている。夜間の緊急対応にも主治医の先生の協力が得られる。個々に病院も違うが、連携が取れている。運営推進会議にも出席していただき、相談等できるようにしている。	提携医療機関とは連携ノートも作成されており連携は取れている。利用者個々のかかりつけ医とも連携が取れており、緊急対応も協力的である。ホームと家族の連携も良く取れている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師を配置をしている。休みの日は、併設している小規模多機能型居宅介護の看護師に相談し観察等行える。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関と提携を結んでおり、相談員を中心とし、情報交換を大切にしている。退院時には、しっかりとカンファレンスを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期のあり方について、施設内で研修を行っている。家族の意見、希望を把握している。医療機関との連携、看護体制は出来ており、看取り看護を希望に応じては行える体制となっている。	家族、医療機関の協力のもとできる限り希望に沿った看取り介護を行われる。重度化や終末期に向けた方針についても説明されている。総合医療センターの看護師の方を招いて終末期についての研修も行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDを設置あり。全職員が救命講習を受けている。また、普及員となれる職員も3名いる。職員は緊急連絡カードを常に持参しており、職員の協力体制も出来ている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練の実施を、年2回行っている。また、少しずつ地域への呼びかけも出来てきたため、近隣の協力が得られるようになってきた。独自に通報訓練を行ったり、環境整備とし誘導完了ライト等の設置も行った。	避難訓練は年2回行われている。夜間避難された部屋が分かるライトも工夫され設置された。近所の方の理解も深まり、協力体制も整ってきている。備蓄も用意されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の行動を把握・記録し、行動の変化を見落とさないようにしている。 記録の保管場所は、外部から分からないように、定位置に保管している。	接遇研修を行なうなどし、一人ひとりの人格の尊重や、プライバシーを損ねないように心掛けておられる。言葉かけも丁寧なされおり利用差の方も穏やかであった。	洗濯物の干し方等少し工夫されても良いかもしれません。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事を残された時など、何が食べたいか等聞き取りを行う。天気の良い日などは、外出を試みたいかなど確認を行い、ドライブや散歩に出かけられるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝食、起床時間など朝スタート時点から、利用者様のペースで進めるようにしている。また入浴時間の決まり等もなく、21:00までの入浴も入れる体制となっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	新しい衣服を職員と一緒に選び買い物をしたり、地域の美容室へ本人の希望で自由に行っていただくようにしている。化粧品を使われる方もおられる為、外出の際にはメイクをさせて頂く事もある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様それぞれの出来る事に合わせて、調理・盛り付け・片付け等を一緒に行っている。畑からの収穫から携わり感じていただいている。 利用者の方と同じ食事を食べる事で、話も弾み、また、調理法について意見を言って、改善等出来ている。	食事の用意から片付けまでできる方は、職員と一緒に行われている。食事職員が隣に座って会話を楽しみながら和やかに食べられている。栄養士の方に要る研修設けられたりしながら栄養のバランスも考えて献立も考えられており、個々の対応が必要な方に對しての対応もできている。行事やイベントで外食を楽しまれたりする機会も設けられている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日平均1400~1500カロリーの食事を目安として、献立作成している。糖尿食の方やきざみ食の方がおられる為、個々の食事形態に応じて対応し、また、体調面に合わせてその都度変更したりしている。糖尿食、腎臓食、いこう食等の対応もできる。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の機能に応じ、毎食後、声かけをして口腔ケア・洗浄剤を使用したりする。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人記録から、それぞれの排泄パターンを把握し、トイレ誘導などを行っている。また、集中してアセスメントが必要な方に関しては細かな起き上がりシートにてパターンの把握に努めている。	排泄チェック表などを使いながら利用者個々の排泄パターンを把握しながら、声掛けやトイレ誘導などを行われている。特に注意の必要な方については起床のリズムも調べる起き上がりシートも合わせて利用しパターンの把握に努められている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取や体操をして頂いたり、献立にも野菜を多く取り入れている。入浴中の腹部マッサージ等行い、自然排便が出来るよう声かけをしている。 便秘の方にはかかりつけ医から、薬を処方してもらっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の希望に応じて入浴時間を決めている。 声掛けが必要な方には、その時の状況に応じて入浴していただく。多くの方が毎日入浴されており、個々に決まった時間に入浴されている。夕食後の入浴希望者が増えてきて	2日に1回は入浴していただくようにされており、入浴時間も利用者の希望を聞きながら決めるようにされている。毎日の入浴や夕食後の入浴にも対応されている。	脱衣場の洗剤等の保管方法も工夫されれば良いかもしれません。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々のパターンに合わせて、自由に過ごされている。 居室以外にも、ホール内でのソファや和室等、自由な場所にも確保している。好きな場所で好きな時間にくつろげる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人記録に薬の説明書を綴り、入院や受診の際の変更時には、職員同士で連絡を取りあっている。業務日誌を活用し、確実な内服把握に努めている。また、看護師より必要に応じて、説明を受けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴を参考にし、奉仕作業や台所での仕事(食器洗い、食器拭き、野菜切り等)を、本人に合わせて支援している。また、趣味や得意な事を活かせる雰囲気作りに努めている。再アセスメントをし状況の変化等にも柔軟に対応している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の希望時に、買い物や美容室など出かけている。また、地域での行事に参加したり、家族様の協力を得て、外出・外泊などいつでもできるように行っている。	日常的に利用者の希望を聞きながら、ご近所の散歩や美容院に行けたりされている。買い物の折にドライブに出かけたりもされている。地域の行事に出かけたりされる。外泊や外食など家族の方に協力を得ながら実施されている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事務所管理をしているが、本人が少額所持され、外出時に使用される方もおられる。また、買い物時には個々に支払いが出来るよう、その都度支援している。毎週金曜日パン屋さんが来るため、買い物される方もおられる		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望で、いつでも自由に電話をかけたり手紙を出したりと、家族様や友人の方などとやり取りをしておられる方もいる。また、正月には職員から声かけをし年賀状等も出せるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールに共同で座れるソファを設置している。 また、ホールや廊下の壁には、手作りの壁飾りを飾り、温かい雰囲気や季節を感じて過ごして頂けるように工夫している。お年寄りの方は、季節により、飾りが変わる事を楽しみにされている	共用空間は広々とした作りとなっている。室温管理もされており、ゆったりとくつろげるスペースが確保されている。季節感のある飾り付けや季節の花が飾られるなど季節感も感じられた。室内犬も飼われており、利用者の方のなごみにもつながっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファでTVを見たり、和室で軽作業をされたりと思いつくように過ごせるようにしている。 1人の時間が確保できるよう、好きな場所で自由に過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使い慣れた家具を使用している。心地よく過ごして頂けるようにしている。 また、和室・フローリングと個々に合わせ対応をしている。身体状況の変化によってその都度、環境の整備を随時行っている。	鏡台やタンスなど使い慣れたものを持ち込んで頂いたり写真など自宅に近い雰囲気を心掛けておられる。ベッドのお部屋や和室のお部屋、利用者の身体状況に合わせた環境整備にも力を入れられています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ・浴室など、場所が分かるように工夫している。室内はバリアフリーとなっており、ホール・廊下・トイレ等は手すりを設置している。居室には名前の記載はしておらず、目印の必要な方はのれんや、飾りをかけ、分かるようにしている。		